





図1 三宅島 雄山山頂部の状況  
坪田監視カメラ（5月12日）による。赤破線は噴煙を示す。

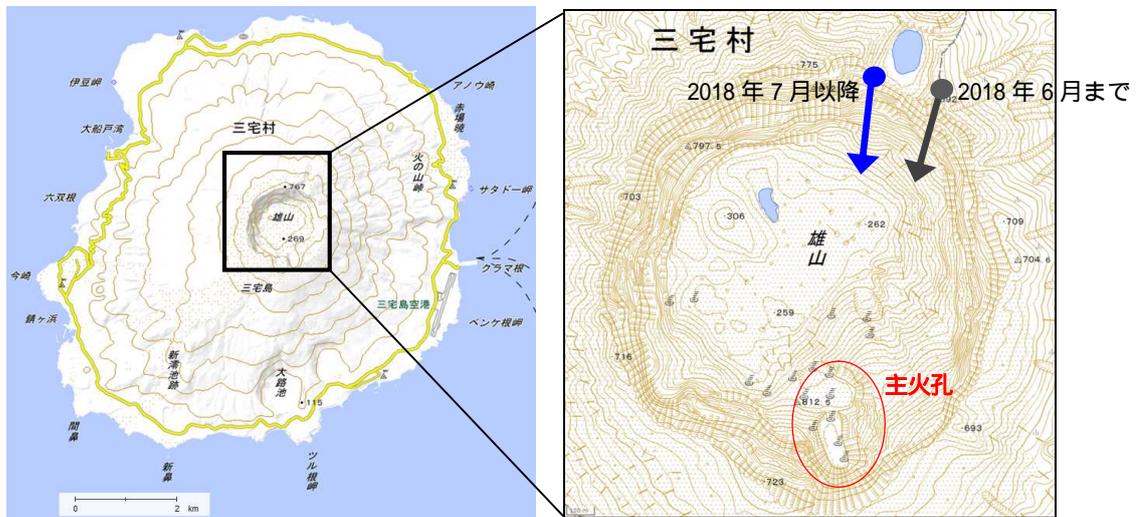


図2 三宅島 図3の撮影場所と撮影方向  
2018年6月まで：灰色矢印、2018年7月以降：青矢印



2019年5月13日07時01分（曇り、気温14.6、湿度79.3%）



2019年4月17日07時04分（曇り、気温13.1、湿度56.4%）



2018年5月11日07時16分（曇り、気温15.1、湿度70.3%）

図3 三宅島 山頂火口内の状況

図中の赤四角は図4の赤外熱映像の範囲を示します。

13日に実施した現地調査では、山頂火口内の地形及び噴気の分布に特段の変化は認められませんでした。

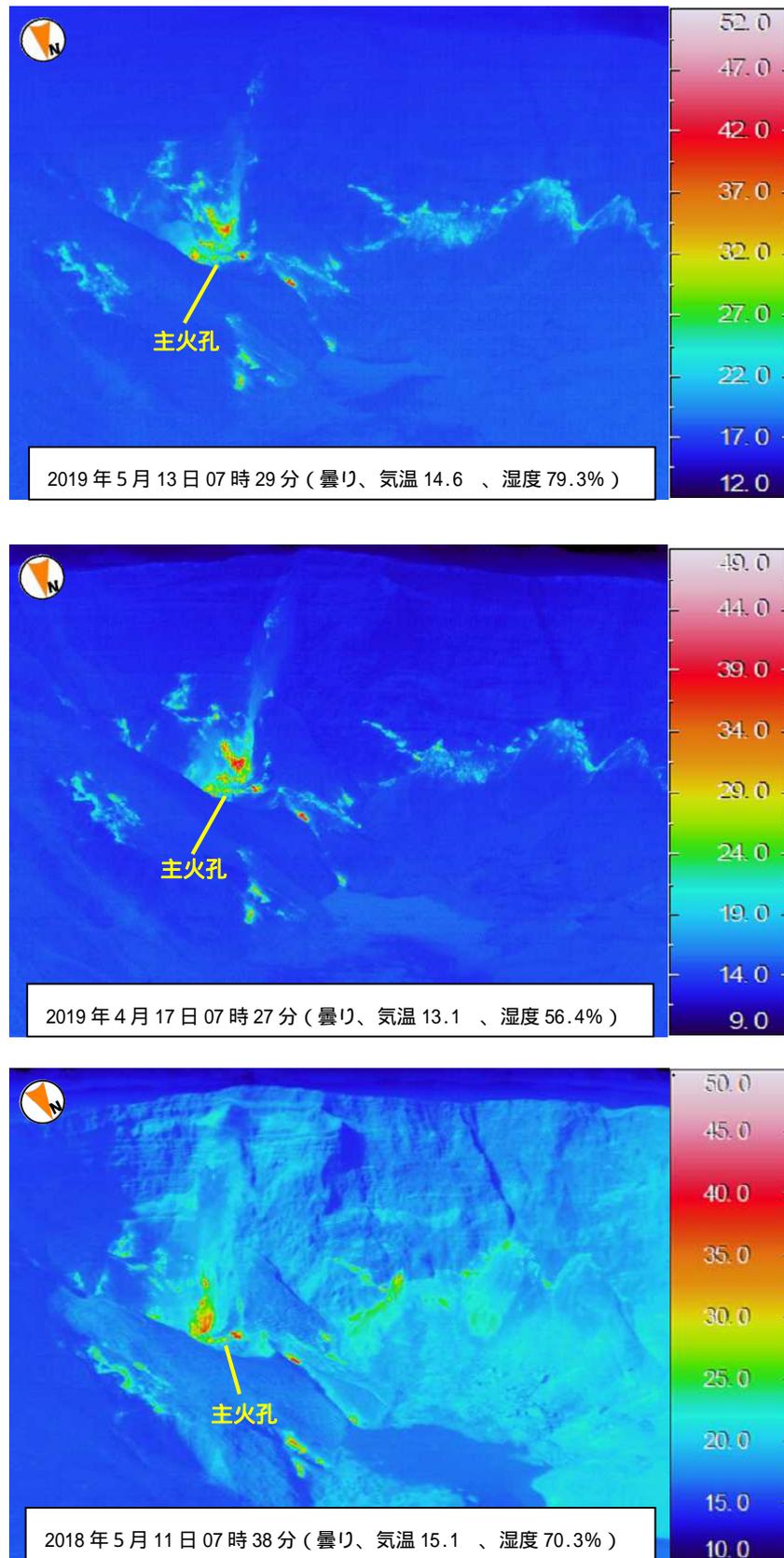


図4 三宅島 赤外熱映像装置による山頂火口内の地表面温度分布  
 13日に実施した現地調査では、4月や昨年と同様に主火口内及びその周辺で引き続き高温領域が認められました。高温領域の分布に特段の変化は認められません。

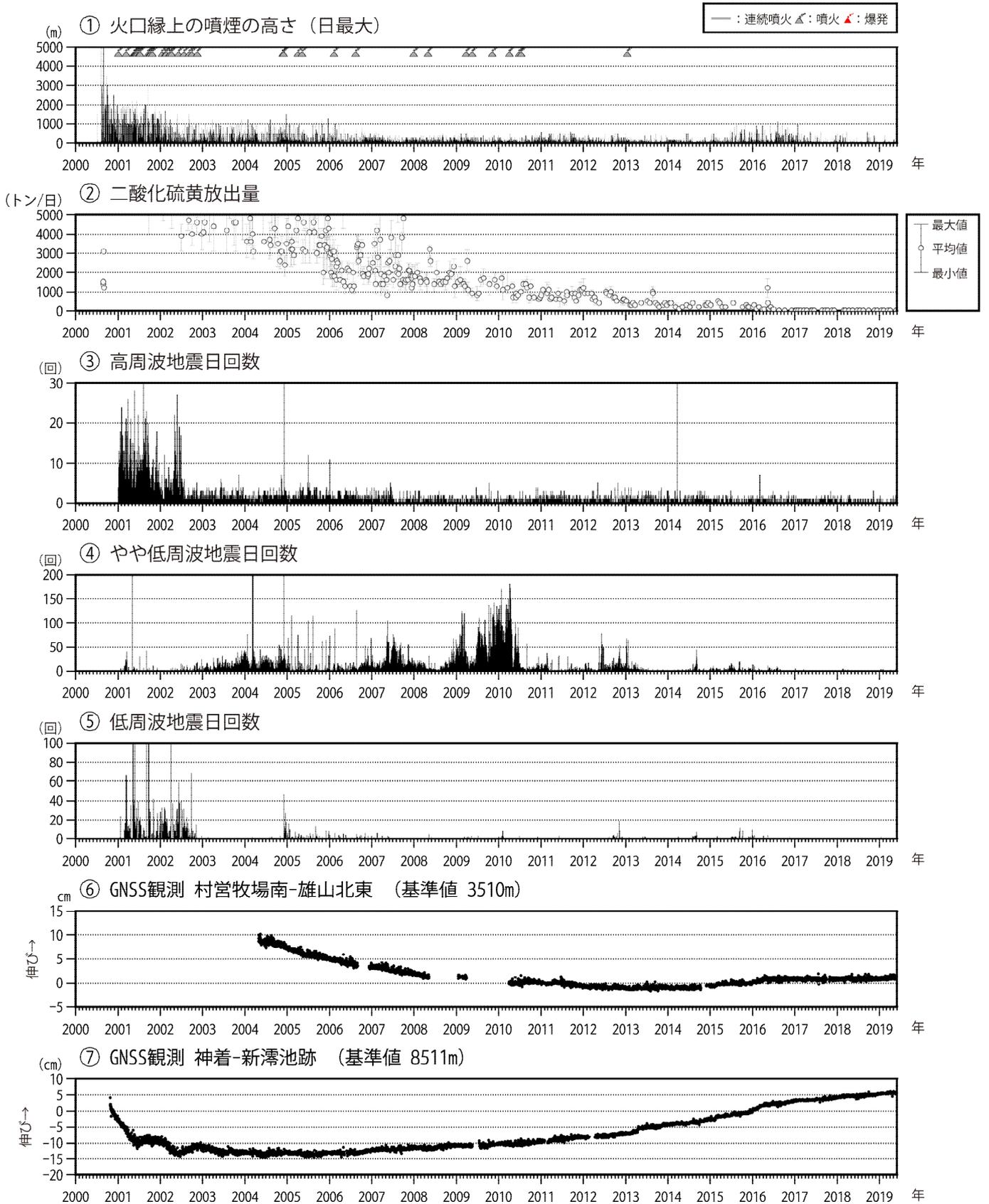


図5 三宅島 火山活動長期経過図（2000年1月1日～2019年5月31日）

図5の説明は次ページに掲載しています。

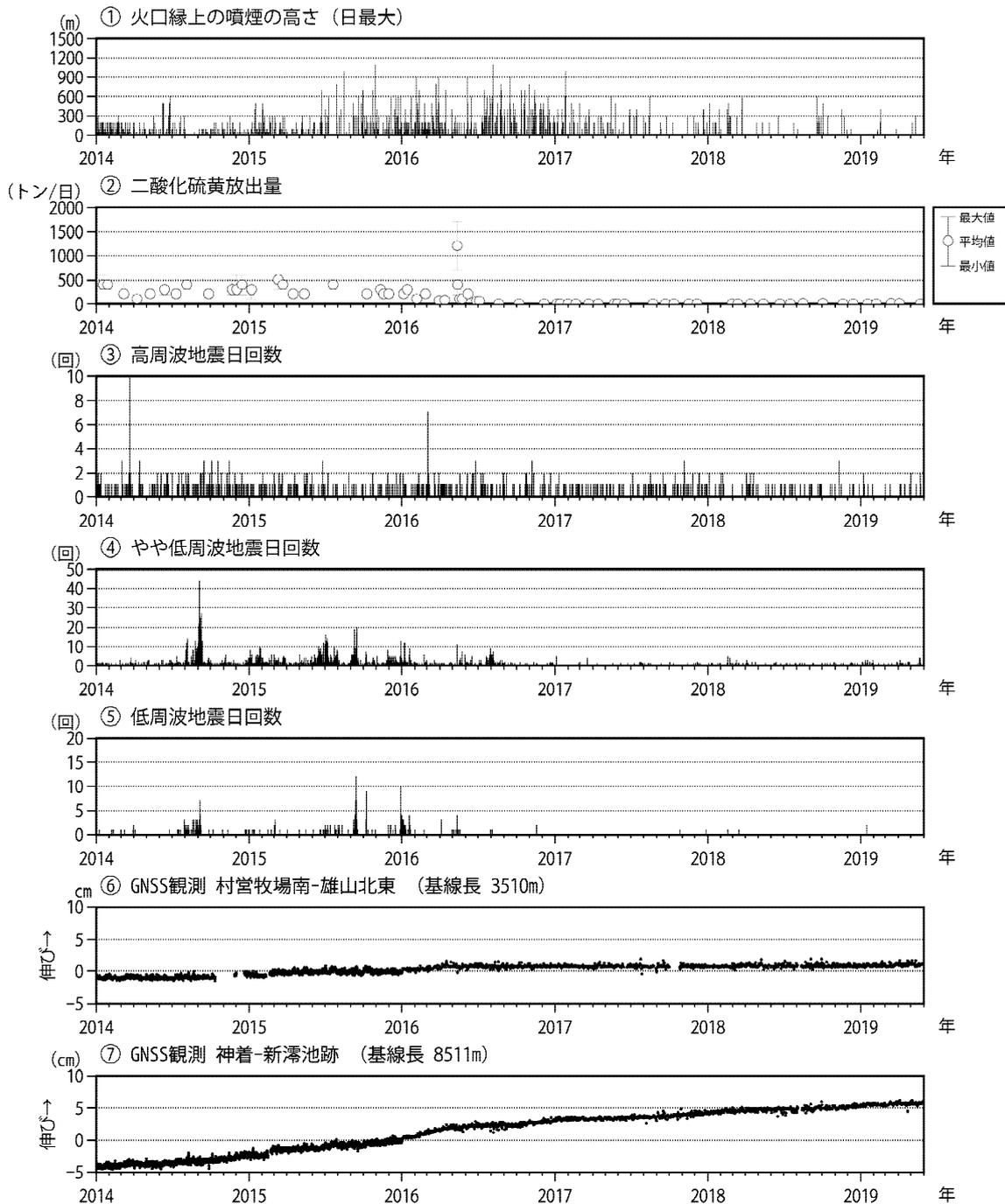


図6 三宅島 火山活動短期経過図（2014年1月1日～2019年5月31日）

図5 2005年11月まで、海上保安庁、陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊、東京消防庁及び警視庁の協力を得て作成しています。

図5、図6 2010年10月及び2016年1月以降のデータについては、解析方法を変更しています。GNSS グラフの空白部分は欠測を示しています。

図5、図6 火山性地震の種類は図9のとおりです。

\* 火山性地震の計数基準

2012年7月まで：雄山北東の上下動成分で最大振幅 12  $\mu\text{m/s}$  以上

2012年8月～11月：雄山南西の上下動成分で最大振幅 5.5  $\mu\text{m/s}$  以上

2012年12月～：雄山南西の上下動成分で最大振幅 6.0  $\mu\text{m/s}$  以上

- ・ 噴煙活動は静穏で、地震活動は少ない状態が続いています。
- ・ 山体浅部の膨張収縮を反映していると考えられる の基線は、ほとんど変化は認められません。
- ・ 山体深部の膨張収縮を反映していると考えられる の基線は、2017年1月頃から膨張傾向が鈍化しています。

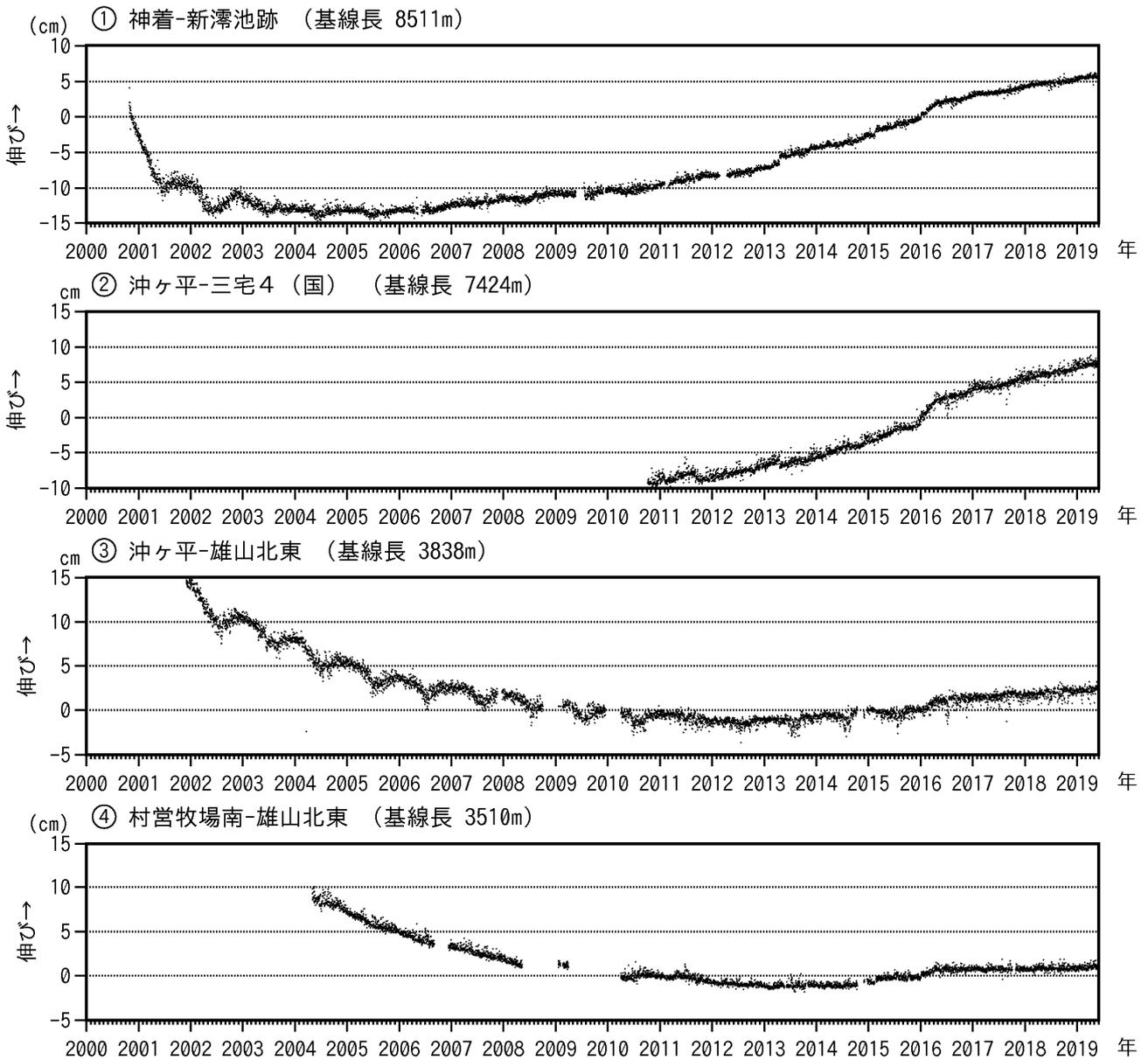


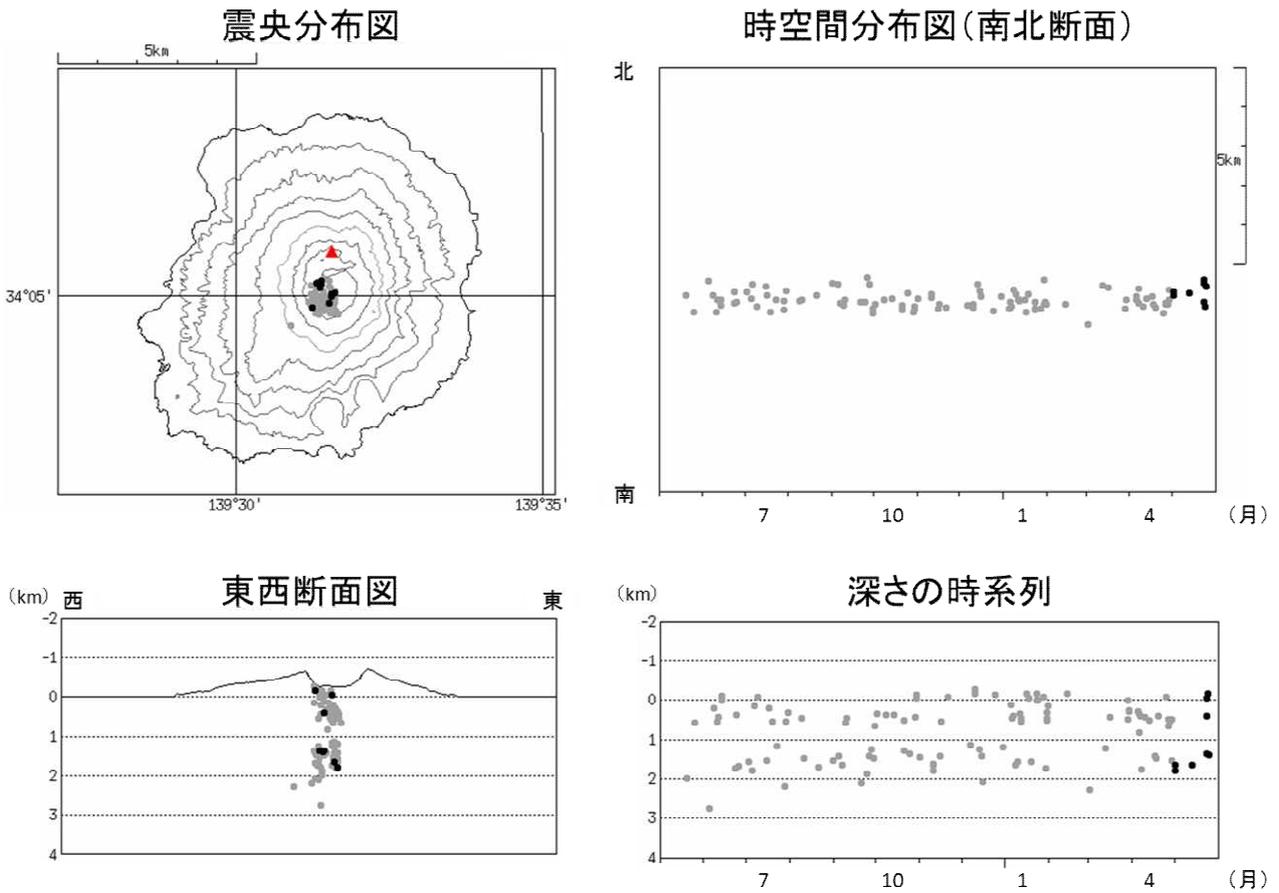
図7 三宅島 GNSS 連続観測結果 (2000年10月26日～2019年5月31日)

(国): 国土地理院

2010年10月及び2016年1月以降のデータについては、解析方法を変更しています。

グラフの空白部分は欠測を示しています。

- ・ 山体深部の膨張収縮を反映していると考えられる と の基線では、2006年頃から膨張を示す地殻変動がみられていましたが、2017年1月頃から膨張傾向が鈍化しています。
- ・ と の基線では、解析開始以来、山体浅部の収縮を示す地殻変動がみられていましたが、2016年5月頃から収縮は停滞し、深部の膨張によると思われる変化がわずかにみられています。



：2018年5月1日～2019年4月30日

：2019年5月1日～2019年5月31日

図8 三宅島 震源分布図（2018年5月1日～2019年5月31日）  
震源は山頂火口直下に分布しており、これまでと比べて特段の変化は認められません。

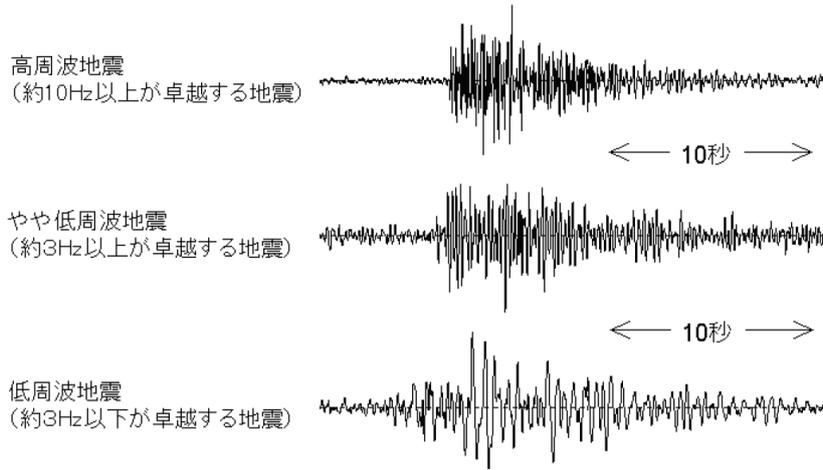
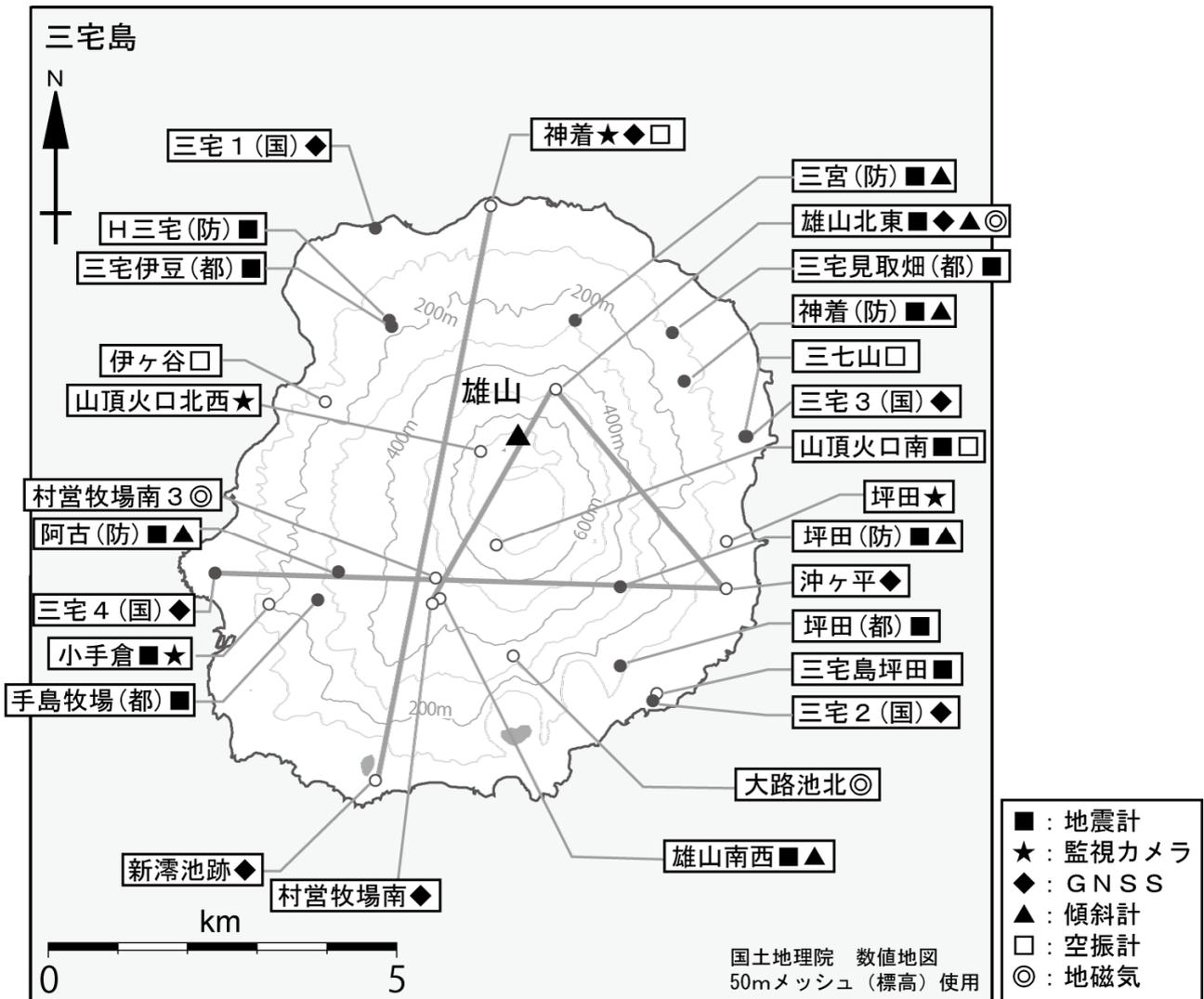


図9 三宅島 主に発生している火山性地震の特徴と波形例



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国) : 国土地理院、(防) : 防災科学技術研究所、(都) : 東京都

図10 三宅島 観測点配置図

図中の直線は、図5～7のGNSS基線を示します。